

金属石けん生産で合意

タイFOCIに委託

日本品質で東南ア開拓

大日化学―昭和興産

【バンコク＝渡邊康広】大日化学工業、昭和興産のタイ子会社、タイのフォルモサ・オーガニック・ケミカル(FOCI)の3社は、タイで金属石けんを生産することを合意し調印式を行った。大日化学の技術でFOCIが生産を請け負い、大日化学が品質保証したうえで、昭和興産タイがタイを中心とする東南アジア諸国連合(ASEAN)市場に販売する。日本では大日化学が販売するが、昭和興産の協力も仰ぐ。FOCIでは、まず汎用のステアリン酸カルシウムとステアリン酸亜鉛の2種類の生産から開始するが、需要に応じて生産品種を増やす。3社が持ち味を発揮してウィンウィンの関係を構築し、日本品より安価だが同等品質の製品を東南アジア市場に広めたい。大日化学の杉本修一社長が語る。

金属石けんは、樹脂や一型剤などに使われ、樹脂の成形時の滑剤や離型の成形やコンパウンド、



FOCIの工場に参集した3社首脳

安定剤などに欠かせない材料の一つ。タイをはじめ東南アジアで需要が伸びているが、これまで現地メーカー品は品質に課題がある一方、日本品は高コストかつ小ロットに

いる東南アジアに狙いを定め、2013年からバンコク郊外のバンプー工業団地(サムットプラカーン県)に工場を構えるFOCIに技術指導を行ってきた。この結果、日本と同等の品質を実現した。FOCIはハラル認証を持つほか、タイ当局から環境配慮のグリーンインタストリー認証やグリーン・カルチャー(ナンバー4)認証を受けている。年内にはGMP基準の認定も受ける見込み。さらに日本のポリオレフィン等衛生協議会の自主基準にも適合済み。FOCIでは、まずステアリン酸カルシウムと同亜鉛の生産を開始する。FOCIは月500トンの生産能力を持つが、このうち早期に100トンの規模を目指す。需要に応じて同マグネシウム、同リチウムなど生産品種を増やしていく方針で、それに合わせ設備更新を行う予定。金属石けんに脂肪酸やポリエチレンなどのワックスを複合したマスターバッチも現地生産する。

昭和興産タイの水野裕行社長は「これまで断念していた東南アジアでの小ロット対応が可能になり、まずはタイの日系企業に販売するが、東南アジアやインドまで拡販していきたい」と話した。FOCI創業者の次女であるチャニッサ・ワンプワバック・マンスメント・エグセクティブは「大日化学の指導で日本技術が備わった。昭和興産を含め3社のパートナーシップを進化させていきたい」と述べた。

対応できないため、需要家は品質に課題の残る現地メーカー品を使用せざるを得ない状況にあった。大日化学は、原材料調達に優位で市場も伸びて